

「平成30年度 第4回大月みらい協議会」 会 議 概 要

日 時 平成30年12月5日（水）午後7時から午後9時まで
場 所 大月短期大学 会議室
出席者 委員10名（11名欠席）
長田弘、小俣理美、佐藤茂幸、志村淳、庄司有紀、白川太、福嶋尚美、
武者稚枝子、山口明秀、渡辺勝
【事務局】 兼子総務部長、金畑地域活性化担当リーダー、久保井、堀内

1. 志村議長あいさつ

こんばんは。12月になりました。4月から今日までの間、皆さんには大変お忙しい中を、自分の時間あるいは仕事の時間を割いて、かなりの努力をして頂きました。ありがとうございます。これは、委員の皆様のみならず、事務局の皆さんにもまったく同じであります。

年が越し、春が先に見えております。私達の任期の終わりも近づいております。是非、そのことを踏まえながら、よろしく願い申し上げる次第です。簡単でございますが挨拶とさせていただきます。

2. 議 題

（1）平成30年度第3回会議概要について

- 平成30年度第3回会議概要の市ホームページへの公開について承認されました。

（2）大月みらい協議会チャレンジ事業の実施結果について

【志村議長】

次に、議題の2に移ります。ここからは佐藤副議長に進行をお願いしたいと思います。よろしく願い致します。

【佐藤副議長】

皆さんこんばんは。1ヶ月たってしまうといろいろなことが忘れてしまいますので、確認から入っていきたいと思います。

私達はこれまでに4つのチャレンジ事業をやってきました。途中、Bグループの計画は、これ以上進められないという判断がなされましたが、残りの3つのグループについては、11月でチャレンジ事業は一応終了したということです。

今後、どうしていくのかということについて、まずはスケジュールから確認をしていき

ます。みらい協議会の今年度事業も残り4ヶ月となりました。本日12月5日の第4回大月みらい協議会では、チャレンジ事業の実施内容についての最終確認をさせていただきます。

翌年1月中旬頃に予定している第5回大月みらい協議会では、グループの中での最終報告会を考えています。各グループには、チャレンジ事業について、効果検証や今後は課題も含めた最終報告をして頂く予定です。それを踏まえて、みらい協議会全体としての今年度事業の報告書というか、それぞれバラバラでやっているものについて、「ふるさと教育」についての検討を全体としてやっていきたいと考えています。

そして、翌年2月にはそれをまとめていきます。そのまとめたものと4つのチャレンジ事業を含めたものを成果報告会として、市民の方に何らかの形で報告会を企画します。そして、翌年3月には来年度どうするのか？ということを検討していきます。全体としては以上のような流れで進めていきたいと思っておりますので、ご承知おきください。今どこにいるのかということを確認させていただきました。

それを踏まえまして、今日の検討事項ですが、この後、一応事業を閉めます。まだ一部事業を実施しているグループもありますが、各グループリーダーから順番に報告をして頂きます。それではAグループから報告をお願い致します。

< Aグループ >

【白川委員】

Aグループの報告を致します。私達のチャレンジ事業は中学生の職場体験を通じて、夢というキーワードをもとに、子ども達と事業所の従業員との夢についての語り合いをきっかけに、子どもだけではなく、そこにいる大人も、気づきや刺激をもらうようなものをねらいとしてスタート致しました。

今回は、時間的な面から大月東中学校を対象としまして、11月に職場体験を行いました。そのための派生した準備としまして、まず1つ目として、「みらい夢カード」を作成して、それを学校に掲示してもらいました。賛同して頂いた事業所は10事業所あり、ここにいるみらい協議会の皆様の所属する会社に賛同して頂きました。

2つ目には、大月東中学校で実施する「職業講話」に参加しました。時間的に都合のついた6事業所の代表の方が子ども達を前に、各事業所が仕事について話をしました。これが2つ目の事業です。

3つ目は「職場体験」です。11月に、生徒たちがそれぞれの事業所に行きまして、2日間、夢を語ったり職業の体験をしたりしました。

Aグループのチャレンジ事業としては3つの取り組みを行いました。結果の部分についてはそれぞれの事業所からコメントを頂きました。また、学校の先生からの意見や、生徒の感想を頂きたいという希望があり、現在取り寄せている状況ですので、その内容が届き次第、検証作業に移っていければと考えています。

総体的に私の感想を言いますと、非常に有効で有意義であったという意見が事業所側からも出ていまして、何とかこれが継続していけるきっかけになるのではないかと、継続したいなという強い思いを持っております。

課題の部分については、今後の検証の中で考えて、最後の成果発表の報告にしたいなと思っています。我々の目線から言うと、これは事業所にとっても有効であったなということが実直な感想であります。何とか形はどうかあれ、これをきっかけに来年以降も続けていきたいなという思いがさらに強くなりました。これでAグループの発表は以上です。

< Cグループ >

【志村議長】

Cグループから発表させていただきます。Cグループからは、ふるさと大月の夢を描き、夢を語る子どもや大人の集う場所を学童クラブに求め、地域の方々の参画を得て、未来を担う子どもたちの放課後の時間を豊かに編んでいくということを目的にしています。この目的につきましても、まだゴールという形にはなっておりません。再考中でございます。

今回の取組みは、11月13日に猿橋小学校が創立記念日で休みであったことから半日かけて実施しました。内容については「ひまわり村」と称しまして、その中で3つの取り組みを行いました。一つは「おにぎり村」、二つ目は「テント村」、三つ目は「ダンボールトンネル村」という形で、子どもに様々なことを体験してもらいました。

詳細は省略致しますが、特に感じたこととして、子ども達は何でも遊びの材料に変えてしまう発想につくづく驚かされました。実に素晴らしいです。私達はかなり想定をして取りかかったのですが、その場になってみると、びっくりするような発想が出て来まして、こういう遊びの中から子ども達の夢に繋がるのかなという思いを持ちました。

また、お手伝いを頂いた地域の6名の方々につきましても、確かに大変な場面もありましたが、後になればなるほど、皆さんから、「良かったね」という言葉を頂きました。

取組みの中の「ぼく・わたしの夢」については、最初から笛を吹いてやって頂いたものではありません。子ども達がダンボールに絵を描き始めたことから、夢を描いてもらうこととなりました。子ども達は15分おきに次から次に興味があることに取りかかります。その流れで夢を描かせたら簡単に書くのではないかと感じ、夢を描いてみてくださいと言ってみたら書いてくれました。子ども達は非日常の状況の中で、気持ちが高まった中で夢を描いてくれて良かったのかなと思いました。

なお、今後、私達はチャレンジ事業が進むにつれ、幾つかの事例を繋げる中で、数々の実体験を踏まえて検証あるいはまとめをしていきたいと思っております。簡単ではございますが以上で説明を終わります。

<Dグループ>

【佐藤副議長】

Dグループの事業は「夢を叶える大月仕事人 情報発信事業」というものです。前回は途中経過を報告させて頂きました。この事業の目的は、ふるさと教育の理念の中に夢を語る大人を発信していこうということがありました。それを具体的な事業にしたものです。子ども達から言わせると、大月には夢がない。大月には夢を語る大人がいない。でも、実は夢を語る大人はいるんだというところも見せていこうという事業であります。

具体的には、大月市の広報でまずは発信していこうということです。まず9月号においては、「夢を叶える大月仕事人」をこれから掲載しますよという予告の案内をしました。10月号からは、「夢を叶える大月仕事人」の1番目として、桃太郎で頑張っている山地さんです。11月号では、みらい協議会のメンバーである藤井さんが登場しました。前はここまでご案内が出来たのかなと思います。

12月号ですが、取材は10月に終わっていましたが、山のスペシャリストということで藤本政幸さんに登場をお願いしました。大月の山があるのは、この藤本さんがいたからと言っても過言ではないという内容が記事となっております。取材者は今回も大月短大生が担っております。

そして、まだ掲載されていませんが、翌年1月号では、ガラス作家の山崎 葉さんに登場して頂く予定です。この方はグループメンバーからのご紹介です。既に取材は終わっております。今回は、初めて現場にお邪魔して取材しました。また、初めて男子短大生が取材をさせて頂きました。この時、たまたまNHKの取材も入り、テレビ放映がされたそうなので、別の発信も出来たのかもしれない。

最後ですが、これはこれから取材予定なのですが、みらい協議会の前議長である星野 喜忠さんに、星野家住宅ということを含めて取材に行き、掲載する予定となっております。一応5回を予定してまして、この5回をもって、「夢を叶える大月仕事人 情報発信事業」は終了させて頂いて、その反響がどうなのかということで、取材した人、取材された人の状況を聞く中で総括して、検証を行っていきたいと思います。以上で説明を終了します。

■チャレンジ事業 統一フォーマットによるグループ最終報告書の提出について

【佐藤副議長】

各グループには、統一フォーマットによる最終報告書を提出して頂きたいと思います。半ば完成している部分もあろうかと思いますが、最終報告書にまとめてもらうための検討を、この後、各グループで話し合ってくださいと思います。

報告書の体裁としては、全部で6項目について記載して頂きます。1番目に事業概要を記載して頂きます。そして、2番目として、「チャレンジ事業の目的とねらいは何なのか？」ということ、を、「みらい協議会が示すふるさと教育の理念」に即して、目的の再確認をお願い

いします。この目的が到達出来たのか、近づいたのかどうなのかを、その後の項目で検証していくということになりますので、目的・ねらいを再度確認して記載をお願いします。3番目としては実施メンバー・関係者を書いてください。そして、4番目の実施内容については、先程発表して頂いた内容で情報は整理されているかと思います。

問題は5番目のチャレンジ事業の検証です。先程挙げた目的とか理念に対して、それが効果として上がっているのかどうかということ、客観的に評価して頂きたいと思います。そして、6番目として、チャレンジ事業を来年度以降、どのように繋げていくのかという課題と対応策をまとめて頂きたいと思います。5番と6番あたりが、今日のグループ会議での検討内容になってくると思います。

この報告書を1月開催予定の次回みらい協議会までに作って頂きます。今日は報告書の内容について何を書くかの合意形成が出来ればうれしいかなと思います。

●その後、各グループで会議が行われました。

(3) その他

- 次回会議については、2019年1月中旬頃を目途に開催する予定です。議長、副議長及びグループリーダーと日程調整し、確定次第ご案内することとなりました。
- 路線バスの取り組みについて、事務局よりお願いがありました。